

科目名	地理学概論	英文表記	Geography		3月28日
科目コード	3016				
教員名: 末村和雄 技術職員名:					修正
対象学科/専攻コース	学年	必・選	履修・学修	単位数	授業形態
全学科	4年	必	履修	2単位	講義
授業期間	前期				
科目目標	現代社会を構築してきた人々の活動を地理的に把握する。社会を表現する様々な空間情報を統計や地図を通じて理解する。				
総合評価	前期・後期評価: 定期試験(中間・期末)の得点の平均によって評価する(100%)。学年末評価は前期評価と後期評価の平均で行い, 60%以上を合格とする。				
達成度目標と評価方法	科目達成度目標(対応するJABEE教育目標)			達成度目標の評価方法	
	①	現代社会を構築してきた人々の活動を地理的に把握する。	⇒	正しく理解できているか定期試験で評価する。	
	②	社会を表現する様々な空間情報を統計や地図を通じて理解する。	⇒	正しく判読・読解できるか定期試験で評価する。	
	③		⇒		
			⇒		
本科・専攻科教育目標	1	2	3	4	
				◎	
授業概要、方針、履修上の注意	授業は主に講義形式で行う。講義は1)地圏環境と空間利用、2)人口の分布、構造と変化、3)産業立地の、3テーマに分けて進める。それぞれについて、知識や能力の定着を定期試験で評価する。				
教科書・教材	主な教材は教員が編集・作成したプリントおよびプレゼン資料である。レポート作成やそのための統計資料収集の際には、各種電子情報を用いるのでPCを携帯すること。また地図帳(新たに購入したものでも、中学校でつかっていたものでも良い)も持参すること。				
授 業 計 画					
週	授 業 項 目	時間	授 業 内 容		自学自習(予習・復習)内容
1	地理学への招待	2	授業の進め方と学説史を概説する。		
2	静気候1	2	地球規模の成帯的な統計気候を学ぶ。		
3	静気候2	2	日本や沖縄の統計気候的位置を知る。		
4	動気候	2	天気図や衛星画像などから気候を学ぶ。		
5	応用気候	2	気候のもたらす恩恵や災害について知る。		
6	土壌と植生	2	成帯的な地圏環境について学ぶ。		
7	水文循環	2	水の分布と動きについて知る。		
8	前期中間試験	2			
9	内力と地形1	2	地球規模の地形について学ぶ。		
10	内力と地形2	2	日本や沖縄の地形的骨格を知る。		
11	外力と地形1	2	山地・丘陵地について学ぶ。		

12	外力と地形2	2	低地・台地について学ぶ。	
13	応用地形	2	地形のもたらす恩恵や災害について知る。	
14	地形と土地利用	2	地形と人間生活の関係を学ぶ。	
15	地圏環境に関する演習	2	地形図の判読演習を行う。	
期末	前期末試験	[2]		
16	世界の人口1	2	地球規模の人口分布と変化を学ぶ。	
17	世界の人口2	2	世界各地の人口の社会的構造を学ぶ。	
18	日本の人口1	2	日本国内の人口の分布と変化を学ぶ。	
19	日本の人口2	2	日本各地の人口の社会的構造を学ぶ。	
20	集落と都市	2	人口の集積する「場」を知る。	
21	商業立地1	2	中心地理論と商圏の関係を学ぶ。	
22	商業立地2	2	日本国内における商業立地の変化を知る。	
23	後期中間試験	2		
24	産業基盤の地域性1	2	世界の第1次産業立地について概観する。	
25	産業基盤の地域性2	2	日本の第1次産業立地について概観する。	
26	近代工業の成立と展開	2	世界の工業立地について学ぶ。	
27	日本の工業地域1	2	日本の近代工業の成立と展開を学ぶ。	
28	日本の工業地域2	2	構造転換期の工業立地を分析する。	
29	日本の工業地域3	2	工業立地の業種別の事例を学ぶ。	
30	日本の工業地域4	2	工業立地の地域別の事例を学ぶ	
期末	学年末試験	[2]		
学習時間合計		60	実時間	45
自学自習(予習・復習)内容(学修単位における自学自習時間の保証)				標準的所用時間(試行)
①				
②				
③				
備考欄				

学習時間は、実時間ではなく単位時間で記入する。(45分=1、90分=2)